

羅針盤



社会科部 情報活用委員会

「おかざき学習」のねらいと願い

社会科部長 松浦 良昭

小学校の郷土読本「おかざき」や中学校の副読本「岡崎」には、「おかざき学習」として、岡崎の偉人である徳川家康、志賀重昂、本多光太郎、石田茂作の4人が取り上げられている。それぞれの人物の業績や一生を知り、どんな生き方をしたのかを考える学習をすることで、郷土に愛着や誇りをもち、「将来こんな人になりたいな」「大人になったらこんなことがしたいな」というような夢をもったり、生き方を考えたりするようになる。そうした思いを「岡崎の心」ととらえ、それを小中学校の9年間で温め育てていくのが、「岡崎の心の醸成」なのである。

さて、小学校での実際の「おかざき学習」を見てみると、4年生では、徳川家康がどんな時代にどんなことをした人かと興味をもち、家康ゆかりの場所を知り、どんな一生を送ったのか調べて、遺訓に込められた思いを考える学習が展開されている。また、6年生では、家康の幕府を開くまでの業績や生き様を調べ、家康が平和な世の中をつくるために行ったことを知り、それを支えた家臣の活躍や思いを理解して、遺訓に込められた願いを考える学習が展開されている。

これらの学習では、家康の業績や人物像を明らかにするために扱う資料が重要である。郷土読本や郷土読本別冊には、授業を進めていく上での資料が掲載されている。それらの資料を、どの場面でどんな使い方をするのか、当然のことながら考える必要がある。加えて、それらの資料から何が読み取れるのかをしっかりと吟味する必要もある。これらの資料のほかにも、指導の手引き「おかざき」(黄色のA4版冊子)にある資料も忘れてはならない。その冊子の147ページに「岡崎の人物史」からの資料がある。この資料を用いると、家康が万民のための平和の願いをもっていたことがよくわかる。つまり、平和を願う家康の人物像が浮き出てくることになる。

こうした学習を通して子供たちは、「我慢強く努力するところをまねしたい」「家臣を信じ抜くところや人を大切にすることがいい」「平和な世の中をつくろうとしたところは立派」など、家康の人物像を思い描くようになるだろう。また、「家臣が主君を信頼し、尊敬するところがいい」と、家臣に思いをめぐらす子供もいるだろう。こうした思いを自分の生き方に取り入れたり、関わらせたりしていけるところが、「おかざき学習」のいいところ(よさ)である。一人でも多くの児童生徒が、郷土岡崎で学んだ「岡崎の心」を自分の生き方につなげていけるようになることが、「おかざき学習」の大きな願いである。



裏面もご覧ください！

『おかざき学習』実践紹介があります。

【『指導の手引き おかざき』】

「おかざき学習」実践紹介

【矢作北小学校】<4年生>「岡崎の英雄 徳川家康」の実践



第1時「徳川家康について知っていることを話し合おう」

徳川家の家紋「三つ葉葵」を見せ、「どこかで見たことがないか」と尋ねると、子供たちは岡崎城や学区にある長瀬八幡宮、大河ドラマ「真田丸」、岡崎の土産品などを挙げました。子供たちは、家康と岡崎市や矢作北学区は関係があるのではないかと思い始めました。次に「家康行列」の写真を見せ、「なぜ家康が岡崎の英雄とされるのか」と尋ねると、「戦いで勝ったから」「天下をとったから」と家康が有名な殿様であったことを何となくは知っているが、詳しくは知らない子供たちの実態を捉えることができました。

第2時「長瀬八幡宮は家康とどんな関係があるのか調べよう」

学区の長瀬八幡宮に出かけ、家康との関わりについて調べました。鳥居や本殿の屋根、賽銭箱、法被や座布団など多くの「三つ葉葵」を見つけ、子供たちは関心を高めていきました。森越町の総代さんから、八幡宮と家康との関わりについてのお話を聞きました。「家康が桶狭間の戦いで岡崎に逃れ、長瀬八幡宮に隠れた。矢作川が増水で渡れず、一心に祈ると長瀬の森から出てきた三匹の白い鹿に助けられ、大樹寺に逃げる事ができた」という言い伝えを聞きました。また「このことにより、家康は長瀬八幡宮を厚く信仰し、『一心』の文字を彫った額や『神代小町絵巻』などを奉納した」と聞き、額の実物や絵巻のレプリカを見学しました。家康と自分たちの学区との関わりを実感し、家康を身近に感じることができました。

第3時「家康と関係のある寺や神社、伝説にはどんなものがあるだろう」

郷土読本「おかざき」で、岡崎市の家康と関係のある寺社や伝説があることを紹介しました。山中八幡宮の嶋ヶ窟の言い伝えを知ると、「長瀬八幡宮と同じような話だ」と関心をもつ子供たちの様子が見られました。

第4時・5時「家康はどんな人だったのか調べよう」

家康の遺訓を取り上げ、「家康がどんな人だったのか」と投げかけました。「強い人」「やさしい人」「人のことを考えている人」などの意見が出されました。「家康はたくさんの戦いをしたけど、本当は戦いは嫌いなはず」と考える子供もいて、本当はどんな人か知りたいという思いをもちました。家康の人物像に迫るために、どんな人生を歩んだのか、郷土読本「おかざき」で学びました。そして、さらに詳しく調べるため、学校やりぐらから図書を借り、学級に特別コーナーを設置していつでも調べられるようにしました。第5時は、調べて分かったことを発表し合い、人質生活、三方ヶ原の戦いで敗戦、天下を取ったことなどについて情報を共有しました。

第6時「家康はどんな人だったのかを話し合い、遺訓に込められた願いを見つけよう」

家康がどんな人だったのかについて、調べたことを根拠に話し合いました。「家族との別れを経験した『悲しい人』」、「家来を大切にする『やさしい人』」、「作戦を立てて戦う『考える人』」などさまざまな意見が出されました。人質生活に耐える「我慢強い人」という意見の一方、戦いにおいては待てなかったり、いらいらしたりすることもあった「我慢強くない人」という相反する意見も出され、話し合いを通して自分では思いの及ばなかった家康像にも気付くことができました。さらに、家康の遺訓に込められた願いを見つけようと投げ掛けると、「みんながやさしく助け合えるように」「けんかがなくなってほしい」「みんなが幸せになってほしい」「何がいけなかったかを考えれば成功につながる」などの意見が出されました。最後には、「戦は二度と起きないように」「争いのない時代にしたい」という戦乱の世の中で数々の困難に立ち向かい、平和の礎を築いた家康への思いを深めることができました。学習後の感想には、「つらいことや苦しいことをこえていかなければいけない」「遺訓を思い出して、不安な時、つらい時に考えよう」と自分の生活と結びつけて考える児童もいました。

第7時「なぜ家康は岡崎の英雄なのか考えよう」

単元の初めと同じ「なぜ家康が岡崎の英雄とされるのか」を問いました。「天下をとってたくさんの人の幸せを取り戻したから」「日本を平和に暮らせるようにしたから」「戦いのない時代にしたいと考えたから」「さまざまな困難を乗り越えてがんばって戦ったから」といった意見が出されました。これらは、「家康の生きざま」と「太平の世・江戸時代」を結びつけて考えた意見で、学習の深まりを感じました。本単元を終えた子供たちからは、「家康についてだんだん興味が出てきた」「家康のように人の気持ちを考えていきたい」という思いを聞きました。郷土の偉人・徳川家康に関心をもち、その願いを受け継ごうとする気持ちの芽生えを感じることができました。